

平成21(2009)年2月7日第119号

学校だより

“1月はいぬ、2月は逃げる、3月は去る。”と昔から言われます。先人は、年度の締めくくりであるこの時期をみごとな言葉で表現しています。私自身、振り返ってみると1月はあっという間に過ぎ去ったように感じました。今年度の残りの授業日を数えてみると、今週を含めて、あと8回になりました。

今月も、ヒューストン美術館見学、漢字検定、授業参観、中高入学説明会、高等部学力テスト・面接など、盛りだくさんの行事が組まれています。

表彰式



前列右から、イーグルンソ ーりかさん、
古賀善二郎君
後列右から、ブローガンアレックス君、
島崎萌南さん、伊勢尚輝君

子どもたちは、限られた時間で作文や俳句、絵、書写などの作品づくりに励み、コンクールに出品します。その成果が表彰状や合格証書になります。せっかくもらった(獲得した)表彰状や合格証書を、学級の中だけで伝達するのは、少々寂しく思い、全校園児児童生徒に披露しようと考え、放送による表彰式を取り入れて2年半、ようやく、この表彰方法が定着してきたように感じられます。

子どもたちは、親や教員から誉められることはとても嬉しいことですが、それ以上に友だちから「おめでとう。」「よかったね。」「すごい!」と誉められ、認められることがもっと嬉しいようです。「授賞されて自信がついた。」「励みになりやる気が出てきた。」このような声が子どもやその保護者から聞かれるだけで、私たち教員は嬉しく思います。朝のわずか5分間ですが、賞を受ける子どもたちにとっては、かけがえのない5分間になります。

1月31日は、硬筆展、年賀状展の表彰式を行い、幼稚園、小学部低学年・高学年、中学部の代表者が賞状を受け取りました。おめでとうございます。

ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

12651 Briar Forest Drive, Suite 105, Houston, Texas 77077

Tel. 281-531-6743 / Fax. 281-531-6795 (事務局 火~金曜日)

Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@jeihouston.org Home Page: www.jeihouston.org

「聞き上手」になってほしい(2)

ある学級の先生に、朝の表彰式の様子を聞きました。「放送をよく聞いて、受賞者に大きな拍手を贈る子が多くなりました。」これは表彰のたびに、子どもたちへの先生の一言二言(「賞をもらう人に拍手を贈りましょう。」「大きな拍手で、讃えましょう。」などの声かけ)によるところが大きいのと思います。

学校だより第113号の続きになります。幼稚園児の活動を見ながら、「聞き上手というのは、聞いて行動に移せることなのか!」という件(くだり)では、当たり前のことをもっともらしく感想として書いていたので、少し恥ずかしい思いをしながら読み返していました。

さて、小学校高学年や中高生で、親に、「ちゃんと話を聞いていないから、〇〇ができないんだよ。」と、まだ注意を受けている人はいませんか。また、保護者は子どもに、「聞くときには作業を止めて、きちんと話しを聞きなさい。」「話は最後まで聞きなさい。」など、聞くことについて注意をする機会が多々ある、または、あったことでしょうか。

子どもたちは、学年が上がるにしたがって話が聞けるように(指示を受け行動に移せるように)なりますが、幼稚園や低学年のうちから、「聞いて(理解して)行動に移す」この“聞く力”をつけていってほしいものです。

幼稚園では、節分を控えて、鬼のお面作りをしていました。先生の顔を見ながら指示を聞き、時々、配られた色紙で話の内容を確認しながら、最後まで話を聞いている園児が多いことに感心しました。

親の語りかけ、問いかけ、そして親子の対話は、「聞き上手」の基になります。保護者の皆さんは、子どもとの会話で気が付いたことがあれば、その時



に、躊躇無くアドバイスしてあげてください。

アドバイスできるのは、その時しかありません。「聞くこと」は「話すこと」「読むこと」「書くこと」の基

盤になります。幼少であっても生活年齢が高いと思われる子どもは、必ず人の話を聞いています。小学校高学年であっても、要点を押さえながら話を聞くことが身につく



【教員の指示に素早く反応する中1生】

いる子がたくさんいます。

中学生になると、内容の事実と意見を聞き分けて、自分の考えと比べながら聞くことができ、自分の考えを自分の言葉で話すことができるようになります。まさに、「話し上手は聞き上手」という言葉が当てはまります。

補習校の子どもたちには、各自が持つ高い能力をもっともっと開発させていくために、「聞き上手」になってほしいと思います。

日本文化紹介 ～ご協力ありがとうございました～

ヒューストン美術館は、毎月第1日曜日をファミリーデーと称し、家族での入館を無料にしています。

美術館の教育部門から、2月1日(日)は、“Journey to Japan”というテーマで開館するので、ぜひ日本文化を紹介してほしいとの依頼がありました。

そこで、教科に創作や合科がある幼稚園部と小学部1・2年生が参加することになりました。

日曜日なので、残念ながら全員が参加することができません。3月にある群読大会で、この時の様子を再現できるように考えています。

館内では、ちょうど特別展示として、江戸時代の屏風(びょうぶ)、日吉山王祭礼図が展示されていることをご存じの方も多と思います。そこで、先生方は日本の四季を説明しながら、お正月やお祭りなどを表現しようと計画しました。浴衣や法被(はっ



【前日準備の様子】

び)を着て、団扇(うちわ)を持って、神輿(

みこし)を担ごうということになりました。

午後2時と3時半の2回のパフォーマンスです。

2年生の藤縄晋央君と本村晏さんが日本語と英語で説明してくれました。

小学部2年生のリコーダー演奏から始まり、1年生のお正月の歌、独楽(こま)回し、羽子板、たこ揚げの紹介がありました。名生小百合さん、リッテンマイヤー珠乃さん、杉谷銀治君、リッテンマイヤー健君、協力してくれてありがとう。



節分の紹介では、幼稚園児が前日作った鬼のお面を頭にかぶり、雰囲気を出してくれました。校長が鬼になって、子どもたちが豆まきの演技をする場面もありました。お祭りでは、小学部2年生が群読を行い、手作りの2つの御輿を幼稚園児と小学部1年生が「わっしょい、わっしょい」とかけ声をかけながら、館内を1周しました。恩田先生の和太鼓に合わせ、全員が「わっしょい」のかけ声をかけ、館内が一体化した見事なフィナーレを迎えました。

ステージとなるギャラリー周辺には、作品が展示されているために、ビデオやカメラの撮影が禁止になっていました。当日の写真は、後日、美術館側から送ってくれるとの連絡が入っています。

短期間での計画、練習でしたが、保護者の皆様のご協力によって、ヒューストンを代表する美術館で日本文化を紹介できたことに感謝いたします。

若田光一宇宙飛行士搭乗のスペースシャトル
「ディスカバリー号」の打ち上げが
2月19日(木)以降に延期になりました。

◆パトロール当番予定表2月14日◆

学年	順位	児童生徒氏名	
★AM1	リーダー	中1	3 全 伽蓮
	2	4 村田 響	
	3	5 畑中 義信	
	4	6 宇野 慎太朗	
	5	7 東 優子	
	6	8 内藤 万紀子	
	7	9 坂上 英	
★PM1	リーダー	10 渡邊 朝輝	
	2	11 我妻 里咲	
	3	12 ゲッチュ カルビン	
	4	14 野口 美樹	
	5	15 上野 早瑛子	
	6	16 三沢 輝璃	
	7	17 秋山 大治	

